Annual Report 2024

認定特定非営利活動法人 Living in Peace

これからのLiving in Peaceをつくる

中里晋三
（なかざと しんぞう）

大学院生だった2012年に参画し、こどもプロジェクトにおいて幅広く活動。理事、副理事長を経て、2018年4月から2024年10月まで代表理事を務める。本業は哲学・児童福祉を専門とする研究者。

龔 軼群
（きょう いぐん）

2015年に入会、マイクロファイナンスプロジェクトで活動するとともに、難民プロジェクトを立ち上げ。理事を1年間務めた後、2018年4月から代表理事。本業は不動産ポータルサイト運営企業の事業責任者。

新理事体制に向けて

Living in Peaceは2018年より、創設者・慎泰俊の後を引き継いだ中里晋三と龔軼群の2名が共同で代表理事を務めてきましたが、今後は両名がその役職を退任し、新たな理事体制で団体を運営していくこととなります（中里はすでに2024年10月31日付けで退任）。

Living in Peaceは2007年の創設以来、「すべての人に、チャンスを。」をビジョンにかかげ、理事を含むすべてのメンバーが本業を別に持つ、無給パートタイムのプロボノとして活動しています。

それは、真に平等な機会のある社会とは、その実現を誰かに委ねることなく、私たちが互いの力と時間を持ち寄って行動することで初めて実現されると信じるからです。

また、すべてのメンバーが対等であるという理念に基づき、オープンかつフラットな組織運営を続けてきました。

Living in Peaceは「社会のことも、私事（しごと）に。」をモットーに、すべての人に開かれた場であろうとしています。安定した運営のもと理念やノウハウなどを適切に受け継いでいくことで、社会により広く、大きなインパクトをもたらす活動となることを目指します。

退任後はメンバーとして活動を継続していく中里と龔が、代表理事としての6年間を振り返るとともに、退任にあたっての想いと、これからのLiving in Peaceへの期待を語ります。

専門性と個性の違いを共有し、強みに変える

代表理事として、これまでどんなことを意識して活動してきましたか？

中里　私は代表理事に就任するまでメンバーや理事として６年ほど活動していました。それまでどこにいても何となく居心地の悪さを感じ続けていた私は、Living in Peace があったことで救われたという思いがありました。代表理事となるにあたって、自分を受け止めてくれたこの団体のかけがえのなさを組織の中できちんと守り受け継いでいくことで、団体への恩返しをしたいという気持ちでした。代表としては、自分自身の興味関心は一方でありつつ、他方で今いるメンバーがどのような景色を見ているか、その中で課題にどうアプローチしようとしているか、それによってどんなインパクトが出せるのかをより考えるようになり、Living in Peace の可能性をより広げていくことを意識してきたと思います。

龔　私は就任当時はまだ本業でもスタッフレベルでしたし、組織を率いた経験もなく、自分に務まるのだろうかという不安もありましたが、１人ではないということもあり、チャレンジしてみようと思いました。ちょうどマイクロファイナンスプロジェクトでミャンマーでのファンドをスタートさせたり、難民プロジェクトを新たに立ち上げたりと、自分の手がけたものが形になるという手応えを感じ始めた頃でもありました。代表として、団体の取り組みを組織の外にどんな表現で伝えるか、活動の過程で連携・交流するステークホルダーの方々に対してどういう姿勢で臨むのか、私たちが目指す姿をどう言語化するかを考えることに注力してきました。フラットな組織とはいえ、やはり代表は自分の言動が団体の信頼性やプレゼンスに影響する重大な責務だと感じました。

中里　そうですね。私の場合は Code of Conduct（メンバーに求められる行動基準、P21 参照）の存在をいっそう意識するようになりました。もちろんそれまでも心がけてはいましたが、代表理事として団体内外にそれを体現する存在になるのだということは重く受け取めるようになりましたね。

代表を２人で務めるというのは、心強さもある反面、難しさもあったのでは？

龔　確かに、私たちは専門性も違えば、性格や得意不得意も真逆で、意見がぶつかることも多々ありました。私は取り組みの意義や効果を分析しながら有効性の高いものを推進していこうとするタイプ、中里さんはみんなの思いを受け止め、包摂しながら後押ししていくタイプ。ただ、活動を進めていくにはそのどちらもが必要ですから、いいバランスが取れていたのではないかと思います。

中里　意思決定を担う代表であることでそうした違いが表面化しやすくなるという面もありますよね。限られた時間の中でそうした違いを共有しながら強みへと変えていくには、根気よくコミュニケーションを続ける努力が大事です。組織としてはそれこそがむしろ健全なことかもしれません。

龔　本当にそう思います。ぶつかって議論が生まれるからこそブラッシュアップでき、多様性が生まれる。私１人の知識や関心、熱意だけでは Living in Peace の活動全体を代表することはとてもできなかったし、お互いに補い合い、助け合えたのは心強かったです。

組織を代表する立場だからこそできた経験

代表理事という立場を経験して、どんな学びがありましたか？

中里　メンバーとして活動していてもいろいろな出会いはあるのですが、代表という肩書があったから得られたであろう人とのつながりや経験は本当に貴重なものでした。私の場合は、児童福祉の現場で新しい時代を作っていこうとしている人た

ちと関わることができ、本業である哲学・児童福祉の研究者としても視野が広がりました。

龔　私もまさに、本業で立ち上げた新しい取り組みにもつながる方々とお会いできたのは、代表としてさまざまな場に出向くことができたからです。また、人を動かすとはどういうことかを学べたのも大きな財産になりましたね。代表理事就任当初は本業でのマネジメント経験がありませんでしたが、Living in Peace で活動を推進する経験を積んだことで、想いや熱量がなければ人は動かないし、活動は続かないと実感しました。現場を体感してもらい、「やりたい」「楽しい」という気持ちを持ってもらうというマネジメントスタイルが本業でも評価されて、新規事業を任されるようになりました。

中里　私の場合は本業が研究職なので、社会をどうしたらより良くできるかという観点から組織をマネジメントし、他団体・機関との協働を重ねた経験は、Living in Peace の代表になることがなければ得られなかったものです。あとは、代表として毎月コラムを執筆したのも、貴重な経験でした。

龔　全部で 70 回？　あれは大変でしたよね。

中里　例えば論文を書くのとはまったく違って、短い文章の中で多くの人にメッセージを読み取ってもらうことの難しさがよくわかりました。でも、組織の代表だから言えること、書けることがあります。私が守りたかったものや理想を言葉にして残せたとしたら、それは本当に得難いことでした。

バトンをパスし、新しい Living in Peace へ

代表理事を退任し、1 メンバーに戻るという決断の背景を教えてください。

中里　自身のキャリアにおけるタイミングということもあるのですが、退任ということも含めて代表の責務だと以前から考えていました。代表という立場であっても理事やメンバーのみんなと一緒に取り組んでいる意識はかなり強いですが、それでも長く代表を務めていると、自然と組織に自分の色が出てきてしまいます。そうした状態が続くほど、次に続く人たちが組織を担いづらい状況になるという危機感がありました。私の色だけが Living in Peace としての姿ではないはずだし、別の人が代表を引き継ぐたびに異なる色になっていったほうが、取り組みの可能性もより広がるでしょう。組織として成長し続けるためにも、再任はしないほうがよいと決断しました。

龔　私も、代表としての自分の意見の重みが、組織の内外において年々増してきているのを感じています。私が走り続けないと組織が動かないというのは、サステナブルではないですよね。これまでも、いろいろなメンバーが関わって、いろいろな色があって、Living in Peace の歴史が作られてきました。これからもそうあってほしいと願っています。そしてなにより、私自身が代表理事を経験して大きく成長できたので、この経験を他の誰かにもしてほしいんです。若いうちにこんな経験ができるのは Living in Peace ならでは。私が受け取ったバトンを次の人にパスしなければ、という想いがあります。

中里　同感です。また、活動が広がり、組織が大きくなるにつれ、なかなか難しい課題も出てきています。代表が交代するというのは組織にとって大きな変化になりますが、だからこそそれがそうした課題を克服するきっかけになりうると信じています。

龔　そうですね。これを機会に、Living in Peace としてどんな社会を目指していきたいのかをあらためて議論し、活動全体の方向性を定める強い軸をしっかり作っていけたら、より確かなインパクトが出せるようになると思います。新しい Living in Peace の展開を、期待をもって応援していただけたらうれしいです。

2024年11月からの理事体制

代表理事：龔軼群（重任）
理事：木下祐馬（重任）、湖山勝喜（重任）、菅山大世紀（新任）、原 好乃（新任）、大橋彩香（新任）、里見春佳（新任 ※ 2025 年 2 月 1 日より）

社会のことも、私事に。

私たちは、すべてのメンバーが仕事などの本分を別に持ち、互いの時間を持ち寄って活動しています。
社会の可能性を信じ、立場によらずその変革も「しごと＝私のこと」とする人たちの力で、
真に平等な機会のある社会の実現を目指します。
現場での支援活動だけでなく、人事、法務、財務経理、広報、ITシステムといった組織の運営に不可欠な管理業務も、
本業を持つプロボノメンバーが担っています。各プロジェクトでの活動に携わりながら、
こうしたバックオフィス業務でもLiving in Peaceを支えているメンバーに、やりがいや想いを聞きました。

人事チーム所属
渡邊翔悟

本業では人材採用を支援する会社で採用支援の実務を担当しています。Living in Peace では人事チームで入退会の管理やメンバーの増強に向けた施策の検討を行っているほか、広報やこどもプロジェクトのキャリアセッション事業にも携わっています。入会してくれるメンバーを増やすこと、できるだけ長く活動を続けてもらうことが人事チームのミッション。そのためにどんな仕組みが必要なのか、本業での知識や経験を活用して自分にできることを考えながら活動しています。同時に、本業では出会えない多様なメンバーから学ぶことも多く、それを本業に活かすこともできていると感じます。

法務チーム所属
梅田陽太

本業は採用や経営を支援するスタートアップ企業の法務です。ボランティア募集サイトの activo で法務を募集していた Living in Peace に興味を持ち、参加しました。法務のほかにこどもプロジェクトのキャリアセッション・お金の教育事業で活動しています。団体内では法務相談を受けることが多く、本業と同様に回答とあわせてその先のアクションについてもアドバイスするよう心がけており、本業の経験が役立っていると感じます。本業では社外の人と関わる機会が少ないのですが、Living in Peace で他の法務メンバーの仕事のしかたや考え方に触れられることで、本業のモチベーション向上にもつながっています。

財務経理チーム所属
森本 謙

税理士として小さな事務所を運営しています。友人に誘われて Living in Peace の関西事業の立ち上げに参加し、現在は児童養護施設の経理支援のほか、財務経理チームの一員として経費精算や決算、経理のルールづくりを担当しています。本業の業務と近いので負担に感じることもなく、自身の専門知識を社会を良くするために役立てられていることにやりがいを見出しています。本業も世代も異なるさまざまなメンバーの業務の進め方はとても勉強になりますし、その熱意には大いに刺激を受けます。リモートで業務を行うことが多いので、各地に散らばっているメンバーと直接会う機会をもっと作っていきたいですね。

広報チーム所属
長谷川よしの

IT 企業でソフトウェアのセミナーやウェブ運営、テクニカルサポートなどを行っており、Living in Peace ではその知識も活かしつつ広報チームでウェブページの作成などを担当しています。入会したきっかけは難民プロジェクトでしたが、新規に取り組みが始まっていた「おでかけリップ」に興味を持ち、広報と兼務しています。Living in Peace では活動歴が浅いメンバーも積極的に意見を求められ、業務を任せてもらえます。私も入会してまだ 1 年ですが、入会しないと一生できなかったような経験をたくさん得られています。広報の業務は幅広いので、多彩なメンバーから学びながらできることをもっと広げていきたいです。

Living in Peaceの社会的インパクトモデル

Living in Peaceは、3つのプロジェクトと組織横断的な活動を通じて、
機会の平等の実現に取り組んでいます。

INPUT	PROJECT	ACTION	OUTPUT	OUTCOME		GOAL
プロボノ メンバー	ALL	社会人や学生が ともに活動する	メンバーが本業の知見 を活かして活躍する	活動を通じて 本業とは別の知識や スキルを得る	活動を通じて得た スキルを本業やさらなる 社会活動に活かす	社会のことも、私事に。 すべての人に、チャンスを。
事業 パートナー		情報発信	SNS 等を通じて活動を 発信する	より多くの人が 社会課題について知る	社会課題に取り組む人が 増加する	
寄付者の 皆様からの ご支援		外国にルーツを持つ こどもたちに社会と つながる多様な体験を提供	自然・文化・社会体験などの 多様な体験、大人や仲間 との出会いを提供する	支援対象者が社会との つながりを感じられる	支援対象者が ポジティブな将来を 描けるようになる	
		海外の農家支援	コーヒー農家の環境に 配慮した生産、及び適正 価格での販売を支援する	環境に配慮した生産の 実施および購入者の気候 変動に関する認知が進む	生産者及び購入者による 気候変動対策が進む	
出資者の 皆様からの 出資金	マイクロ ファイナンス プロジェクト	途上国の人たちの 金融包摂推進	自立した生活を送る ための金融アクセスを 提供する	支援対象者の生活水準 が向上する	支援対象者が 新しい挑戦ができる	
		途上国における ソーシャル ビジネス支援	途上国の社会的起業家 が事業拡大に必要な 非金融支援を提供する	支援対象者の ビジネスが拡大する	社会課題認知を進めると ともに、対象事業に携わる 人々の生計が安定する	
監事・ アドバイザーの 皆様からの ご支援	こども プロジェクト	困難な状況にある こどもたちへの 直接支援	こどもたちへ金銭的・ 非金銭的支援を行う	こどもたちが将来の ために学び続ける 環境を得る	こどもの将来の可能性が 拡大する	
		困難な家庭の課題 に取り組む団体 への間接支援	支援団体への金融的・ 非金融的支援を行う	支援団体の活動が 拡大する	より多くのこどもたち が支援を得ることが できる	
	難民 プロジェクト	日本に暮らす 難民の日本語習得 支援	日本で生活するための 日本語の基礎を習得 する支援を行う	支援対象者が日本語を 活かして日本社会での 関係性を構築する	支援対象者が日本で より活動を拡大 できるようになる	
		日本に暮らす 難民の就労支援	自立した生活を送るための 就労機会を獲得する 支援を行う	支援対象者の生活水準 が向上する	支援対象者の日本の 生活基盤ができる	

Living in Peaceが見据えている課題とこれまでの成果

機会の平等実現には、まだ多くの克服すべき課題があります。
Living in Peaceは3つのプロジェクトを通じてこれらの課題に取り組み、
これまでに以下のような成果を上げてきました。

	解決すべき課題	Living in Peaceの活動成果
マイクロファイナンスプロジェクト	世界で銀行口座を保有していない成人の数 約14億人 The Global Findex Database 2021	マイクロファイナンスの認知向上フォーラム 合計動員数 1,000人以上 MF 投資ファンド数 合計調達金額 10件　3億1,731万円
こどもプロジェクト	さまざまな理由で実親と暮らせないこども 約4万5,000人 児童養護施設入所児童等調査（平成30年度） ひとり親の相対的貧困率 約2人に1人 国民生活基礎調査の概況（2022年） 年間虐待相談対応件数 21万9,170件 令和4年度児童虐待相談対応件数	施設小規模化建替支援総額 1億3,100万円 こども食堂利用者 のべ1,579人 施設退所者向け奨学金支援 計16名　総額2,738万円
難民プロジェクト	2023年の日本の難民申請者数 13,823人 うち難民認定者数 303人 法務省「令和5年における難民認定者数等について」	就職活動の伴走支援を行った難民の方々 29名（うち4名は支援中） LIP-Learning（難民への日本語学習支援プログラム）の提供 105名

マイクロファイナンスを通じた金融包摂事業（ケニア）

活動の詳細はこちら

ケニアでのファンド運用支援

ケニアでタクシー事業者向け中心に融資を行うHAKKI AFRICAに対するファンド（LIP-HAKKIケニアファンド）への出資を2023年1月より開始しました。出資開始後は、現地での経営状況や顧客の状況をまとめた月次のモニタリングレポートを出資者に送付し、ファンドのスキームやケニアの経済・政治情勢のほか、顧客やスタッフのインタビューなどさまざまな情報を発信しています。

LIP-HAKKIケニアファンドの実績

貸出累計額：24.5億円[*1]
ファンド出資時[*2]**比　＋19.8億円**
総顧客数　：1,384人[*1]
ファンド出資時[*2]**比　＋681人**

＊1 2024年11月現在　＊2 2023年1月

支援するマイクロファイナンス機関からの声

HAKKI AFRICA
Jacob Kipchumba Rotich 氏

営業部で顧客への融資説明、販売業者との折衝、顧客との契約書面の準備、契約の締結など幅広い業務に携わっています。HAKKIの組織としての特徴は、透明性とアカウンタビリティです。他社では不明瞭な請求をされるといった不満を聞いたことがありますが、HAKKIではそうしたことはありません。HAKKIはケニアでも有数の融資機関で、毎日たくさんの顧客が窓口に並んで融資を待っています。顧客からのニーズや要望は非常に大きく、会社として成長する中で、ケニアには融資を求めている人がこんなにも多くいるのだと感じます。HAKKIの一員としてこれからも貢献していきたいです。

マイクロファイナンスの顧客からの声

Jommo Bethel氏

タクシードライバーを始めたのは、コロナ禍で自営業が立ち行かなくなったことがきっかけでした。最近では同業者が増え、売上は若干減少傾向に。ナイロビではおおよそ25kmの運転で1,000ケニア・シリング（約1,180円）の売上になり、この金額には配車アプリへの手数料（約18%）も含まれています。1日の乗客数は15人ほどで、そのうち10人程度が短距離の移動です。平日は朝夕の通勤・通学時間帯が乗客数のピークで、週末はショッピングモールやホテル周辺に乗客が集中します。このような時間帯や場所を意識することで、売上の伸びしろがあると考えています。

タクシーの乗客としてドライバーからHAKKI AFRICAを紹介され、マイクロファイナンス機関の利用は初めてでしたが、スタッフの対応が良かったため他と比較することなく利用を決めました。2023年6月に640,000ケニア・シリング（約754,632円）の融資を受け、42か月での返済を予定しています。カスタマーサポートや返済プラン相談にも柔軟に対応してもらえており、サービスに満足しています。今はドライバーの仕事を続け、しっかりと返済を完了して家族の生活を支えることに専念したいです。新しい車を持てる機会を与えてくれた日本の投資家の皆さまに、心から感謝しています。

マイクロファイナンスを通じた金融包摂事業（ミャンマー）

活動の詳細はこちら

ミャンマーでのファンド運用支援

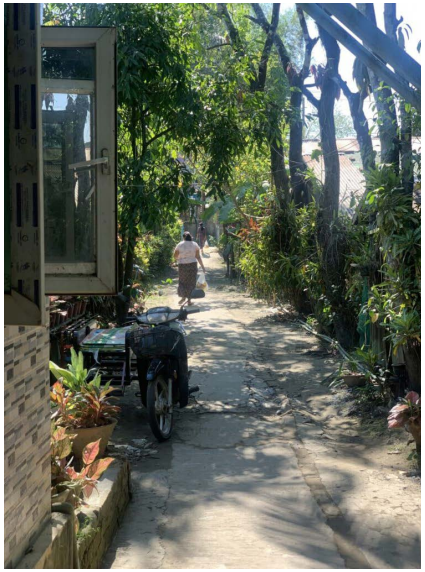
2019年から支援しているミャンマーのマイクロファイナンス機関MJIエンタープライズのファンドについて、社会的インパクト評価のための調査・分析を引き続き実施。顧客へのインパクト（顧客のウェルビーイング向上）とMJIの事業との関連性を調査しています。

2024年7月にはMJIエンタープライズの状況報告と同社CEO加藤侑子氏との交流を目的としたイベントをオンライン・対面ハイブリッドで開催しました。

ミャンマーMJI貧困削減ファンドの実績

貸出累計額：2億1,037万円[*1]
顧客数：9,283人[*1]

*1 2024年9月現在



2024年7月のイベントで紹介したミャンマーの様子。イベント前後には、会場としてお借りした「うんてん洋菓子店」で販売しているMJIの顧客が生産したコーヒーを提供

支援するマイクロファイナンス機関からの声

MJIエンタープライズ　職員一同

Living in Peace、ミュージックセキュリティーズとともに組成したLIPミャンマーMJI貧困削減ファンドは、2024年でおよそ5年目となりました。厳しい内戦と国内経済状況が続く中でも、いつも変わらない温かい笑顔と態度でサポートを続けていただいていることに、心から感謝しています。

2023年に運営中の3支店が内戦の影響下に入ってからは、ファンドへの定期モニタリングで直接現地スタッフから話を聞いてくださり、当地で災厄の中を日々生きるスタッフに「自分たちは世界で取り残された存在ではない」と感じられる時間と経験をいただいています。

ご担当の皆様一人ひとりが「自分ごとにする」という理念を常に持っておられること、手を取り合い共に事業に取り組めることの喜びを、LIPとのパートナーシップの中に感じています。

2024年の活動ハイライト ● こどもプロジェクト

永和町プロジェクト

活動の詳細はこちら

こども食堂、フードパントリーによる食を通じた支援

奈良県大和高田市の「永和町ベース」においてこども食堂「りっぷキッチン」を開催し、年間（2023年8月～2024年7月）でのべ380名のこどもたち・地域の方々が参加しました。2024年6月からは開催回数を月2回に増やしたほか、運営をマニュアル化し地域ボランティアの方々に担ってもらえる範囲を拡大し、地域コミュニティの創出にも貢献しています。

また、不定期に開催したフードパントリーでは、のべ424世帯にお米、レトルト食品などの食材やお菓子を配布。2022年より大和高田市内のこども食堂が合同で開催している食支援イベント「つながるチカラ大作戦」では457世帯への支援を行いました。こうした支援が永和町ベースでの他の活動に参加していただくきっかけにもなっています。

プログラミング教室、放課後自習室ではこどもたち同士のつながりを促進

IT企業でシステムエンジニアを務める方と月2回共同で運営する無料のプログラミング教室「LIPLAB（りっぷラボ）」には、のべ247名のこどもたちが参加。こどもたち同士が交流できる時間を設けたことで、お互いに教え合う場面が増えました。月1回、こども食堂の後に元塾講師の地域ボランティアの方が宿題を見てくれる放課後自習室「りっぷらいぶらり」でも、他の子の勉強を見てあげるなど、やりとりをしながらそれぞれのペースで楽しく勉強できています。

地域拠点としての居場所づくり

2023年1月に開始した月2回開催の不登校児等居場所事業「ぼんやりカフェ Hoko hoko」に加え、2023年12月からはヤングケアラーのための子どもの居場所「おはようさろん」を毎週実施。「朝良い時間を過ごせたら少し楽に過ごせる気がする」というコンセプトのもと看護師の事業者・地元ボランティアの方々が丁寧に話を聴き、他の場所では話せない想いをここでは吐露できるという声も聞かれています。どちらも徐々に参加者が増え、さまざまな事情を抱えるこどもたちにとって大切な居場所となっています。

りっぷキッチン（左）、LIPLAB

りっぷらいぶらり（左）、おはようさろん

利用者・参加者の声

- 小さい子がいると周りに気を遣って外でゆっくり食事ができないけれど、食べている間おもちゃで遊んでくれたので、いつもより楽しみながらご飯をいただけました。（こども食堂利用者）
- 「楽しかった、勉強も解りやすく教えていただいたよ」と喜んで色々と教えてくれました。（放課後自習室利用者の親）
- 「癒されたくて…」といつも親子でくるお母さんが一人で来てくれた。お母さんの居場所にもなっている。（ぼんやりカフェ Hoko hoko の運営スタッフ）
- 人と関わるのが苦手。みんな優しくしてくれて今までになかった安心を感じられる。おはようさろんに来て1週間頑張れる。（おはようさろん利用者）

キャリアセッション

活動の詳細はこちら

「おしごとリップ」を継続実施

児童養護施設で暮らすこどもたちを対象に、将来の職業の選択肢を広げるとともに非認知能力の向上を目指すキャリア教育プログラム「おしごとリップ」を、関東と関西の2拠点でそれぞれ月1回実施。関西では今年度から1施設が新たに加わって対象施設は計4か所となり、製造業、公務員、eスポーツなど幅広い業界について講義とワークショップを組み合わせたプログラムに、関東では10名、関西では16名のこどもたちが参加しました。

他団体へのプログラム展開を継続

より多くのこどもたちにキャリアセッションを体験してもらうため、プログラムの横展開に向けた取り組みを中長期的に進めています。今年度は、他団体との意見交換を行い、プログラム設計の負荷軽減を目的とした内容の整理を行いました。

非認知能力向上に向けたプログラム強化を推進

こどもたちの非認知能力の向上を目指し、行動指標を作成するとともに、その指標に基づく成長の定性的なモニタリング手法を検討しました。これらの取り組みから得られた知見をもとに、「おしごとリップ」のプログラムをさらに強化していきます。

関東（左）と関西で開催した「おしごとリップ」

「おしごとリップ」参加者・施設関係者の声

■参加し始めた頃は何をやるのか不安に思っていたが、3年目の今は安心して楽しみに参加しています。受験生ですがおしごとリップは息抜きになっていて、周りの子にもためになるので参加したほうがいいと勧めています。（参加者）

■おしごとリップに参加して一番変わったのは、人としゃべるのが苦手ではなくなったことです。コンビニのバイトでもお客様と話すのがとても楽しいと感じるようになりました。（参加者）

お金の教育

活動の詳細はこちら

「お金の教育講座」を引き続き開催

児童養護施設を退所予定の高校生を対象にお金の知識を育む「お金の教育講座」を3施設で引き続き開催したほか、里親子を対象とした特別講座も実施（P14参照）。合わせてのべ73名のこどもたちがオンラインで受講しました。また、「おしごとリップ」（P12参照）の中でも講座を実施し、関東・関西でのべ18名のこどもたちが受講しました。

「お金の情報」を総合的に提供するランディングページを作成

社会的養護下のこどもたちに必要な「お金の情報」を提供するランディングページを新たに作成。大学・専門学校進学にかかる費用をオンラインで計算できる「進学シミュレーション」、奨学金情報をAIで提案する「奨学金チャットBot」、「お金の教育講座」の案内・申込窓口に効率的にアクセスできるようにしました。

「お金の教育講座」受講者の声

- 今回の講座を受けてアプリを使って家計簿をつけ、貯金をしていきたいと思いました。
- 自身の支出が思ったよりも多く、考え直さないといけないと思いました。
- 家計簿の重要性や、支出と収入のバランスのとり方について学べました。
- 収入より支出を多くしないようにすることが大切！貯金も大切！だということを学べました。

「お金の情報」をまとめたランディングページ

2024年の活動ハイライト ● こどもプロジェクト

里親支援

活動の詳細はこちら

世田谷区における里親制度の普及啓発をサポート

東京都世田谷区のフォスタリング機関ともがき（運営：社会福祉法人東京育成園）と同区内の里親の方とともに、里親についてポジティブな印象を持ってもらうことを目的とした動画を作成しました。

世田谷区の里親普及啓発活動の一環として動画を作成

動画はこちらからご視聴いただけます

里親家庭で育つこどもの自立支援として「お金の教育講座」を実施

お金の教育事業と連携し、世田谷区内の里親子向けにオンラインで「お金の教育講座」を実施しました。

東京養育家庭の会の50周年記念誌の制作を支援

東京都の里親制度の推進に取り組む特定非営利活動法人東京養育家庭の会が50周年を迎えるにあたり、記念誌の制作を支援しました。

動画制作にご協力いただいた里親の方の声

現役の里親の中にも映像のプロがいる…ということで、今回お声掛けいただき、動画制作に参加させていただきました。重々しくなりがちなテーマなのですが、実は里親は自分たちが楽しむためにその道を選んでいるのでは?!という視点を本動画では貫いています。ひと言で里親といってもあり方は人それぞれ。ただ取材した皆さんに共通していたのは超ポジティブな姿勢でした。この動画が里親という家庭のカタチに興味を持っていただく一助となれば何よりです。

2024年の活動ハイライト ● こどもプロジェクト

奨学金

活動の詳細はこちら

児童養護施設退所者への奨学金給付と伴走支援を継続

4名の奨学生に家賃補助として月額上限60,000円（実費）、オンライン授業参加のための通信費補助として月額5,000円の奨学金給付を継続。半年ごとに資金シュミレーションを行い、面談を実施して学生の状況と卒業に影響する課題がないかを確認しています。2024年3月には3名の奨学生が4年制大学を卒業し、支援を完了しました。なお、2025年3月に卒業予定の1名の奨学生を最後に、奨学金事業は終了となります。

奨学生の声

- コロナ禍と共に始まった大学生活、当初は異例の事態に戸惑い、新たな地にうまく適応できるか不安を感じていましたが、大学の友人や先生方に恵まれ、さまざまな制限がありながらも充実した大学4年間を過ごすことができました。4月からは一般企業に就職しますが、これまで支えてくださったLIPの皆様、支援者の方々への感謝の気持ちを忘れずに立派な社会人になれるよう、邁進してまいります。今まで本当にありがとうございました。（2024年3月卒業、OTさん）
- 大学では、福祉学科に所属し、児童福祉や障害福祉について精力的に学びました。4年次の夏には、障害施設へ実習に行き、現場や支援について学ぶことができました。卒業論文では、これまで多くの方にお世話になったことから、自立支援の現状と課題について研究を行いました。その際、児童養護施設利用者の途中退学率が高いことを具体的に知ることができ、自分がいかに支えられているかを再確認することができました。私が大学を無事卒業することができたのは、皆様のお力添えのおかげです。今後は、さまざまなものに触れながらやりたいことを探していこうと思っています。4年間ありがとうございました。（2024年3月卒業、KMさん）

LIP-Learning

活動の詳細はこちら

日本に暮らす難民 38 名の日本語学習を支援

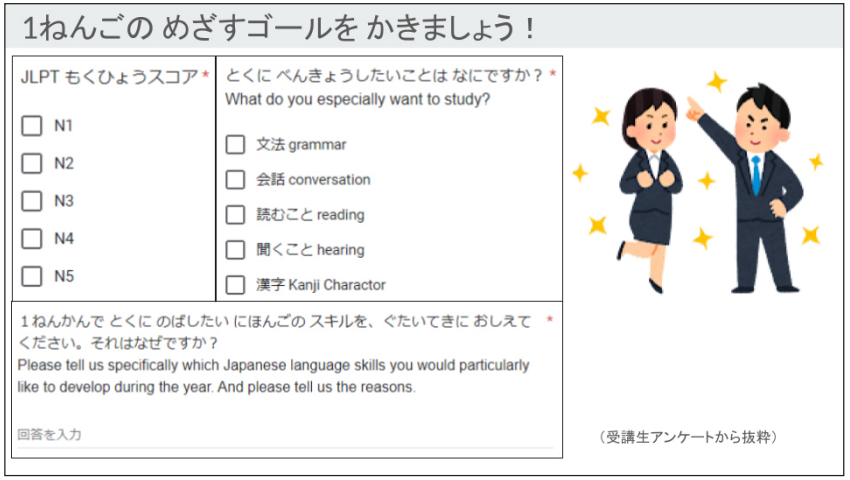
日本に暮らす難民の方々の経済的自立、社会統合を目指し、日本語学校との提携により、各受講者がレベルに合わせた授業を受講できるよう支援。今年度は 38 名の受講生を支援し、事業開始からの受講生はのべ 104 名に。

日本語教育機関との連携を拡大

これまで提携してきた TIJ 思徳会、ISI 日本語学校、にわとりの会に加え、27th 株式会社とも業務提携し、トライアルを授業を実施しました。

卒業生を対象としたイベントを開催

LIP-Learning の卒業生と連携先の日本語学習機関の先生を招いたイベントを開催しました。受講終了後も Living in Peace のメンバーや他の卒業生との交流の機会を持つことで、日本語力の向上や関係性の維持につなげています。



年間の目標を立てて日本語学習を支援

LIP-Learning 受講者の声

■以前よりも日本語をずっとよく理解できるようになり、日常生活で効率的にコミュニケーションをとることができるようになりました。

卒業生向けのイベントでは参加者が日本の家庭料理や難民の方々の出身国の料理などを持ち寄って交流

就労支援

活動の詳細はこちら

難民の大学生の就職活動を伴走支援

日本に暮らす難民の大学生を対象に、自己分析、履歴書の添削、面接の練習など就職活動に向けた伴走支援を実施。2018年から累計29名の学生を支援し、うち9名が国内の企業への就職を実現しています。現在は1名のサポートを継続中です。

国連難民高等弁務官事務所駐日事務所（UNHCR）との連携を継続

UNHCR難民高等教育プログラム（RHEP）の奨学生向けに就活セミナーを年間2回開催しました。

就職活動における生成AI活用マニュアルを作成

就職活動において生成AIを活用するためのマニュアルを作成し、公開に向けた準備を進めています。

高等教育進学の課題解決に向けた検討を開始

キャリア形成における高等教育進学の課題に新たに目を向け、外部団体へのヒアリングや調査活動を開始しました。

RHEPの奨学生向けセミナーでは、グループセッションでLiving in Peaceのメンバーが自身の職業や業界について紹介

就活セミナー参加者の声

- これから始まる就活についてまだ知らないことがたくさんあったことに驚きました。まさに“無知の知”。少し不安がやわらいだと思います。
- 外資系の企業の話を聞けて、海外の企業は社会に合わせてものすごいスピードで変化していくということを学ぶことができて良かったです。
- 就活のシステムや流れなどを分かりやすく説明していただけて理解しやすかった。グループワークで各職種ごとに詳しい情報や就活する上での大切なことを学ぶことができたので非常に有意義な時間だった。

支援を受けて内定を獲得した学生の声

私は大学3年生の後期に就職活動を始めました。進学を考えていたこともあったため、就職活動に関して何も分からない状況でしたが、Living in Peaceのメンバーの皆さんが真剣に向き合ってくれ、企業の業界などの知識を教えてもらえたので、就職活動に対して広い視野を持つことができました。また、親密に接してくれたため、自身のことを話すことができ、それによって自己分析ができました。自分の就きたい職を見つけ、面接にも自信をもって臨め、お陰様で内定をいただくことができました。このような就職活動の支援をしてくださる機会をいただき、心から感謝いたします。

Cultural Diversity Index（CDI）

Cultural Diversity Index

活動の詳細はこちら

組織の文化的多様性向上の取り組みの指針となるCDIの正式版をリリース、認証システムをスタート

組織が文化的多様性の向上に向けてノウハウを共有できる仕組みを構築していくための評価指標として、全39項目からなるCultural Diversity Index（CDI）を策定。2024年6月20日の世界難民の日に、CDIに基づいて取り組みを評価するエントリーシステムを開始しました。

2024年10月にはCDI2024認証式を開催し、エントリーした15法人を対象に取り組みに応じてグリーンからゴールドまでの認証を授与。また、特筆すべき取り組みとして5つの「グッドプラクティス」を表彰しました。

エントリー法人（50音順）

エヌアセットホールディングス
グローバルトラストネットワークス
Cor-an Holdings
さくらコーポレーション
東芝
パーソルキャリア
パーソルクロステクノロジー
PERSOL Global Workforce
ピープルフォーカス・コンサルティング
ピープルポート
ファイントゥデイホールディングス
BonZuttner
manicreation
明光キャリアパートナーズ
Robo Co-op

2024年10月に開催した認証式

CDIエントリー法人の方々の声

- 認証式でグッドプラクティスとして紹介された取り組みは、多くの企業・団体にとって参考になるものでした。
- 今回の認証は、私たちが目指す「誰一人取り残さない社会」と、デジタルインクルージョンの推進が評価された結果です。
- 自社のDE&I（多様性・公平・包摂）の取り組みが対外的に評価され、人事部門のモチベーション向上になりました。

こどもの体験プログラム「おでかけリップ」

活動の詳細はこちら

外国ルーツのこどもたちに体験プログラムを提供

日本に暮らす外国にルーツを持つこどもたちに「自分の将来を考えるきっかけ」を提供することを目的とした体験プログラム「おでかけリップ」を年間7回開催。外部団体と連携して多様なプログラムを実施し、5か国から難民として来日した小学2年生から中学2年生までの11名のこどもたちとその保護者が参加しました。

今後は対象を母子生活支援施設出身者にも拡大し、参加者を公募。自然や社会、文化を身近に感じたり、自分の将来に思いをはせたりする「おでかけ経験」を通じて、ポジティブな将来を描き、そこに向かっていけるマインドを醸成することを目指します。

農園での農業体験

JAXA 筑波宇宙センターの見学

「おでかけリップ」参加者（こども・保護者）の声

- おでかけが好きじゃなかったけど、参加して好きになった。（こども）
- はじめてしんかんせんにのってたのしかったです！（こども）
- みんなと仲良くなれて最高だった。（こども）
- これまで県外に出かける機会がなかったが、いろいろなことが体験できた。（こども）
- こんなたいけんができてよかったです。ごはんやバーベキューがとてもおいしかったです。（こども）
- おとまりがたのしかった。（こども）
- さまざまな国の子たちと触れ合うことができ、色々な人がいるのだなと思えるようになった。（保護者）
- 参加されている他の国のこどもたちと友達になれて、毎回会うのを楽しみにしています。（保護者）
- 色々な理由で外へ連れて行くのが難しいので、保護者としてとても助かってます。（保護者）
- こどもたちの以前の成長と見比べることができた。（保護者）

グリーンビジネス支援

活動の詳細はこちら

「気候変動×貧困問題」をテーマとした ワークショップを開催

インドネシア・バリ島で「気候変動に起因する農家の貧困」に取り組んでいるパートナー、su-re.co（シュアコ）のバイオガスキット普及に向けた取り組みや、支援している農家の方々の声などを紹介するほか、日本の現状も伝えながら、気候変動と貧困の問題が基礎から学べるワークショップを２回開催。課題の啓蒙に注力しました。

su-re.co が支援する 農家のコーヒーの販売促進に協力

su-re.coの活動の紹介と同社が支援する農家のコーヒーの販売促進を目的に、Good Nature Station Kyoto にてポップアップショップを開催しました。

2024 年 4 月に開催した第 1 回のワークショップ

京都で開催したポップアップショップ

ワークショップ参加者の声

- ■バイオガスキットの仕組みやインドネシアのインフラ事情についての解説が印象に残りました。
- ■再生可能なプロジェクトの実例を知ることができてよかったです。
- ■現地の動画がわかりやすかったです。

ワークショップでは動画で現地の声を伝えた

会計報告

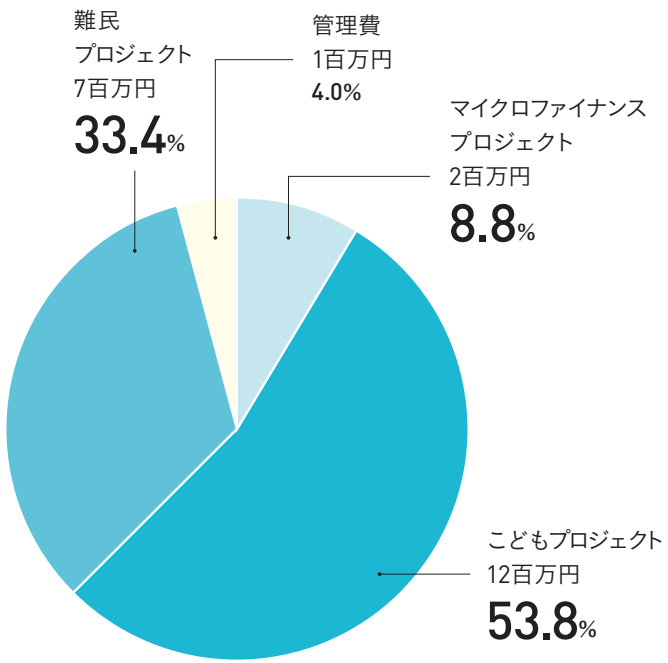
活動計算書

（単位：円）

科目	2023年7月期 ①	2024年7月期 ②	前年同期比②－①
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費	880,000	852,500	▲ 27,500
2. 受取寄附金	36,918,317	35,499,138	▲ 1,419,179
3. 受取助成金等	0	0	0
4. 事業収益	1,661,462	272,330	▲ 1,389,132
5. その他収益	7,218	29,839	22,621
経常収益計	**39,466,997**	**36,653,807**	**▲ 2,813,190**
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
（1）人件費	0	0	0
（2）その他経費	22,440,309	21,857,845	▲ 582,464
事業費計	22,440,309	21,857,845	▲ 582,464
2. 管理費			
（1）人件費	0	0	0
（2）その他経費	892,651	918,269	25,618
管理費計	892,651	918,269	25,618
経常費用計	**23,332,960**	**22,776,114**	**▲ 556,846**
税引前当期正味財産増減額	**16,134,037**	**13,877,693**	**▲ 2,256,344**
Ⅲ 法人税等	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増加額	16,134,037	13,877,693	▲ 2,256,344
前期繰越正味財産額	59,476,263	75,540,300	16,064,037
次期繰越一般正味財産額	**75,540,300**	**89,347,993**	**13,807,693**
受取寄付金	15,400,000	0	▲15,400,000
一般正味財産への振替額	0	▲ 4,735,424	▲ 4,735,424
前期繰越指定正味財産額	0	15,400,000	15,400,000
次期繰越指定正味財産額	**15,400,000**	**10,664,576**	**▲ 4,735,424**

経常費用の内訳

費用のうち96%が事業運営のために使用されています（管理費 4%は団体維持のための費用です）。
メンバー全員が他に本業を持ちながら無給で活動しているため、人件費は発生しておらず、事業費のほとんどは支援先のために使用しています。



事業費の主な内訳

プロジェクト	活動	事業費	内容
こども	永和町プロジェクト	6 百万円	こども食堂、フードパントリーの食材購入、プログラミング教室講師料等
難民	LIP-Learning	5 百万円	日本語学校授業料等
こども	奨学金	3 百万円	児童養護施設退所者への奨学金給付（家賃補助）
こども	キャリアセッション	1 百万円	おしごとリップの運営費（飲食代、会議室利用料、交通費等）
こども×難民	おでかけリップ	1 百万円	こどもの体験プログラム「おでかけリップ」の運営費（交通費、体験施設利用料、飲食代等）

企業からの支援

Living in Peaceの活動は、企業の皆様からのご支援にも支えられています。

IBM コーポレーション

インヴァスト証券株式会社

MFS インベストメント・マネジメント株式会社

株式会社グッドパッチ

コストコホールセールジャパン株式会社

株式会社ファイントゥデイ

メットライフ生命保険株式会社

（50音順）

寄付のご案内

マンスリー・サポーター

マンスリー・サポーターは、毎月定額で継続的にご寄付いただくプログラムです。団体全体もしくは各プロジェクトに対し、月々 1,000 円からクレジットカードによる継続寄付をしていただけます。ご支援いただいた皆様には、メールでの活動報告のほか、イベント情報などを優先的にご案内いたします。

登録はこちらから
https://www.living-in-peace.org/donate/

スポット寄付

月々の継続寄付のほか、ご都合のよいときにクレジットカードまたは銀行振り込みで寄付いただくことも可能です。金額もご自身で設定いただけます。

クレジットカードは左記のマンスリー・サポーターと同じウェブページからワンタイム寄付を選択ください。

銀行振込は、下記宛にお振り込みください。

振込先

楽天銀行第一営業支店（251）
口座番号　普通口座　7282130
口座名義　特定非営利活動法人 Living in Peace 共通口座
カナ表記　トクヒ）リビング イン ピース キョウツウコウザ

※ Living in Peace は認定 NPO 法人です。皆様の寄付金は税制上の優遇措置の対象となり、寄付金控除の適用を受けられます。
※ 寄付額の一部は、団体維持運営費に充当させていただきます。

Living in Peace の Code of Conduct（行動基準）

感謝の気持ちを持つこと	私たちは常に感謝の気持ちを忘れることなく他者と接し、行動します。
他者に共感する気持ちを持つこと	私たちは他者の置かれた状況や環境に関心を持ち、思いを馳せ、自分のことのように感じ行動します。
プロアクティブであること	私たちは活動に積極的に参加し、問題に対してはよく考えると同時に、実際に行動を起こします。
多様性を尊重すること	私たちは組織発展の不可欠な要素として多様性が必要であることを深く認識し、多様な属性を持つ人の参加や多様な貢献の仕方を受け入れ、推進します。
謙虚であること	私たちは相手を思いやり、敬う気持ちを持って他者と接します。 私たちは常に内省に努めることで、自分を客観視します。 私たちは好奇心を持って自らに不足する知識や経験の吸収に努めます。 私たちは自分の行動に誤りがあり、またはそれを指摘された場合には素直にそれを認め、速やかに訂正します。
大志を持つこと	私たちは高い志を持ち、その実現に向けて地道な努力も厭わずに取り組みます。 私たちは初心を忘れることなく、原理原則にぶれることのない行動を取ります。
オープンであること	私たちはオープンな場で議論を行い、本人の前で行わない異議申し立ては禁止します。 私たちは全ての意思決定は公開の場で行うことにより、ポリティクスを排除し、偏った意見形成を行わないこととします。 私たちは意見の表出は建設的な提案として行い、反対意見がある場合は代替案を提示します。
前向きであること	私たちはできないことについて後ろ向きの言動を行わず、できることで最善のことを考え、実行します。 私たちは明るく・元気よく・楽しく、をモットーに行動します。
仕事に責任を持つこと	私たちはLiving in Peaceにおける自身の役割・仕事について責任感を持ち、最後までやり遂げます。
本業／学業を大切にすること	私たちは、本業／学業に重く価値を置き、そこにおいて秀でることができるよう最大限の努力をします。 私たちは、Living in Peaceの活動によって本業/学業を犠牲にしません。

これらの行動基準を実践し、継続して活動できる、熱意を持ったメンバーを求めています。
まずはオンラインでの定例ミーティング見学にお越しください。詳細はこちらから。

私たちの歩み

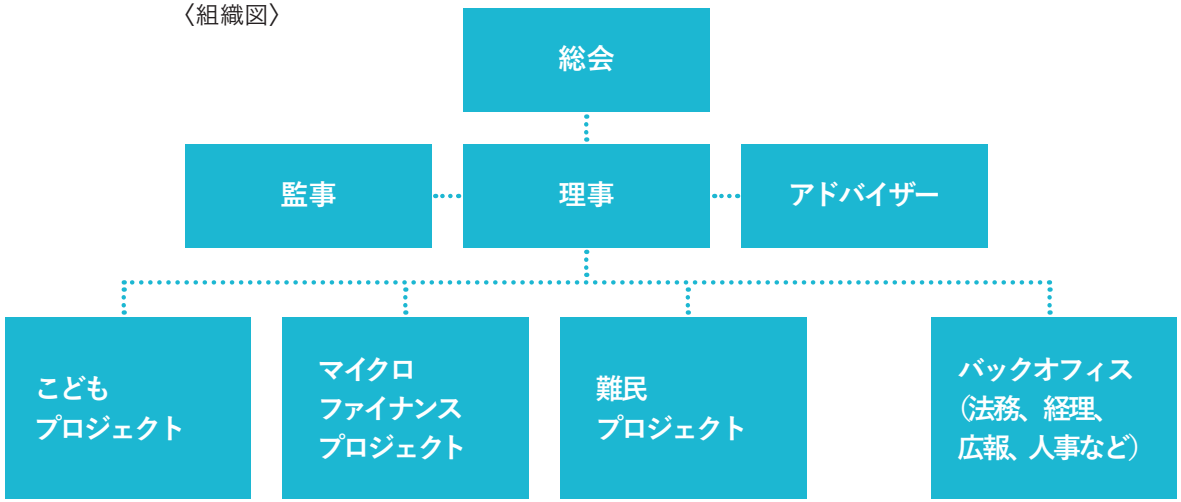
Living in Peaceは2007年の設立以来、「すべての人に、チャンスを。」という
ビジョンの実現に向けて活動の幅を広げてきました。

2007	■ 4名の有志による貧困の終焉のための勉強会を開始 ■ 勉強会をきっかけに Living in Peaceを結成
2009	■ NPO 法人格を取得 ■ 日本初のマイクロファイナンスファンドを企画 （ミュージックセキュリティーズと提携） ■ カンボジア 第1ファンドで約 2,500万円の調達に成功 ■ こどもプロジェクトがスタート、児童養護施設「筑波愛児園」へ訪問
2010	■ 児童養護施設の建て替え支援事業とキャリアセッション事業を開始 ■ カンボジア 第2ファンドで約1,500万円の調達に成功
2011	■ カンボジア 第3ファンドで約 3,000万円の調達に成功
2012	■ 認定 NPO 法人の認定取得 ■ 児童養護施設「筑波愛児園」の建て替え支援を実施 ■ ベトナム 第1ファンドで約 2,500万円の調達に成功
2013	■ カンボジア 第4ファンドで約 4,000万円の調達に成功
2014	■ 「Chance Maker 奨学金事業」を開始 ■ ベトナム 第2ファンドで約 4,000万円の調達に成功
2015	■ 児童養護施設「鳥取こども学園」建て替え支援を実施 ■ カンボジア 第5ファンドで約 6,000万円の調達に成功
2016	■ 関西を拠点とした活動を開始
2017	■ 児童養護施設「広島新生学園」建て替え支援を実施
2018	■ 慎泰俊が理事長を退任。中里晋三・龔軼群が代表理事に就任 ■ 永和町拠点が奈良県大和高田市に完成 ■ 一般社団法人 MY TREE への支援が決定 ■ 難民プロジェクトを発足し、難民学生の就職支援を開始
2019	■ ミャンマー第1ファンドで約4,000万円の調達に成功 ■ 「お金の教育事業」を開始 ■ 児童養護施設「東京育成園」と里親制度普及啓発事業の協業を開始 ■ 日本に暮らす難民への日本語学習の機会を提供する「LIP-Learning」を開始
2020	■ ミャンマー第2ファンドで約2,500万円の調達に成功 ■ インドネシアの su-re.co との共同事業を開始 ■ 難民学生の就職支援にて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR ）との業務提携を開始 ■ 東京大学と「移民・難民二世のキャリア形成に関する調査研究」を開始
2021	■ 日本児童相談業務評価機関（J-Oschis）の創設に協力 ■ 外国籍の子育て世帯に対する緊急支援を実施
2022	■ ケニアでのファンドを組成 ■ 建て替え支援の資金調達を完了
2023	■ 外国ルーツのこどもたち向け体験プログラムのトライアルを開始 ■ Cutural Diversity Indexのベータ版を作成

■ Living in Peace ALL プロジェクト　■ こどもプロジェクト　■ マイクロファイナンスプロジェクト　■ 難民プロジェクト

団体概要

名称：認定特定非営利活動法人 Living in Peace
2007年10月28日 結成
2009年4月13日NPO法人格を取得
2012年7月16日 認定NPO法人を取得

団体所在地：〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町 5–1
創設者：慎泰俊
代表理事：龔軼群
理事：木下祐馬、湖山勝喜、菅山大世紀、原好乃、
大橋彩香、里見春佳
監事：五十嵐裕美子（五十嵐綜合法律事務所弁護士）、
鈴木瞳（元 マカイラ株式会社 執行役員）
アドバイザー：
小森哲郎（株式会社ファイントゥデイ 代表取締役社長兼 CEO）、
河口真理子（立教大学 21 世紀社会デザイン研究科 特任教授）
メンバー：135 名（2024 年 12 月現在）

〈組織図〉